

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 伸縮装置後打ち材補修工		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株	
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	金子 歩夢	
作業名称	コンクリート構造物への断面修復工事	作業手順書	作成年月日	令和5年7月3日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	黄バト、4tダンプ車、連絡車、4t移動式クレーン車 ジェットモービル車		現場責任者		
使用工具 機器 (大きき太さ等は具 体的な寸法を記す)	チップパー、プレーカー、ハンマードリル、集塵機、ロードカッター コンプレッサ、延長コード(ドラム等)、発電機、ブロアー、パイプレーター		協力会社	会社名 秩父産業株式会社 自筆サイン	
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、防護メガネ、防護マスク、反射脚絆 手袋(耐振動用、耐切削用【ヨーロッパ規格EN388:2016 レベルF】)		協力会社責任者		
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	普通自動車運転免許、準中型自動車運転免許、中型自動車運転免許 振動工具取扱作業者(特)		作業順序		
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	墨だし:1~2名、カッター工:1~3名、ハツリ作業:4~6名、ハツリ箇所清掃:5~6名 鉄筋工:4~6名、打設:3~6名、養生:3~6名、清掃作業:全員		1	準備作業	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日	令和 年 月 日	2	墨出し
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)			3	カッター工
				4	ハツリ工
				5	ハツリ箇所の清掃
				6	※1補強鉄筋工
				7	打設
				8	打設面の表面養生
				9	確認・後片付け

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対する指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業									
ミーティング	健康状態の確認	作業責任者(職長)が確認							体調不良の作業員は作業をさせない
	免許・資格等の確認	作業責任者(職長)が確認							※舗装部分にはカッター、プレーカーは入れない
	KYMの実施	作業員全員で							
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認・入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認	運転手、全員							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
確認作業	埋設物・仮設物の確認	管理用図面での事前確認	図面、現地の確認をせず損傷させる。	×	×	×	5	公	作業員全員で確認する。(協議無しは保全許可済み)
墨出し	マーキング材での位置取り	ハツリ箇所の確認	墨出しを怠ることにより、ハツリ箇所を間違える。	○	△	○	2	品	作業員へ施工場所の説明、確認を行う。
カッター工	墨出し箇所の切り込み	振動工具の使用	粉塵が舞い上がり、一般車の視界を遮る。	△	△	△	3	公	粉塵が発生する場合は切込み面へ水を投入し巻き上げられないようにする。
ハツリ工	ハツリガラの飛散	振動工具の使用	飛散防止飛散対策を行わず、他の車両に傷をつける。	△	×	△	4	公	飛散防止用ネットを持参しハツリ作業箇所を囲う。ネットは飛ばないように地覆等へ縛り付けること。
ハツリ工	発生材の回収	回収・積み込み中	急ぎ作業で指を詰める	○	△	○	2	安	慌てず、手元注意
ハツリ工	墨出し箇所のハツリ	振動工具の使用	30分以上、使用し、白癩病を引き起こす。	△	×	△	4	安	一連続作業時間を30分以内とし、一連続作業の後5分以上の休止時間を設ける。
ハツリ箇所の清掃	粉塵の撤去	ブロアーの使用	ハツリ後の粉塵が残り、プライマーやモルタルの付着が悪くなる。	△	△	△	3	品	ブロアーで粉塵を飛ばし、1箇所ずつ素手による確認を行う。
鉄筋工	補強鉄筋工	ハッカーの使用	鉄筋のあき、かぶりを考慮せず結束し品質に影響を及ぼす。	△	×	△	4	品	設計図書の図面通りの配筋を行う。固定は重ね継手とする。
打設工	ジェットモービル車の使用	打設時	コンクリートの品質基準を守らず、施工し品質が悪くなる。	△	×	△	4	品	縦シユートの採用、パイプレーターの挿入時間:10~15秒、材の横移動禁止、フリーディングの除去を行う。
打設工	ジェットモービル車の使用	打設時	コンクリートの品質基準を守らず、施工し品質が悪くなる。	△	×	△	4	品	スランプ試験、圧縮試験を行う。
表面養生	鍍による塗布	被膜剤の使用	フリーディングが終了前に被膜剤を塗布したことにより品質が悪化する。	△	△	△	3	品	フリーディング終了後、脆弱層(染み出し水)を除去し被膜剤を塗布する。
清掃・後片付け	清掃・後片付け	残材、工具の忘れのないように							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
									工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事